

北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方に関する懇談会 第1回会合 議事概要

- 1 日 時 令和4年5月31日(火) 15:00~17:00
- 2 場 所 道庁本庁舎13階(塔屋) 環境生活部1号会議室
- 3 出席者 (構成員) 阿部 千春 氏 ((一財)道南歴史文化振興財団)
大津 和子 氏 (北海道ユネスコ連絡協議会)
國木田 大 氏 (北海道大学大学院)
渋谷 和憲 氏 ((公社)北海道観光振興機構)
森 朋子 氏 (札幌市立大学)
- (道 側) 塚田文化局長、家山室長、寒河江主幹、児玉係長、
村本主査、依田専門主任、梅田主事

4 議 題

「北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方」について

5 概 要

縄文遺跡群の適切な保存と活用を図るために必要な、受入体制の充実や情報発信などに取り組むための機能のあり方について、有識者から幅広く意見を伺いたい旨説明の後、意見聴取を行った。

○各構成員から発言のあった主な意見等

(1) 拠点機能のイメージについて

- ・拠点機能の具体的な内容について、ユネスコの理念など様々な見地からの議論が必要。

(2) 人材教育について

- ・観光面から見て縄文遺跡群は地味なので、補完する役割として、ガイドイングが大事であり、ガイドの育成が大切だと感じる。
- ・人材の育成とは、どのような人材を育成していくのか、具体的に整理した方が良い。

(3) 交流機能について

- ・国内外の他の世界遺産との交流機能が必要。北東アジアとヨーロッパの違いを見るなど。共通点、類似点や違いを知ることができる。
- ・子どもや研究者の交流など、幅広く考えていくべき。

(4) 研究機能について

- ・大学と連携して縄文世界遺産の価値を高める取組などを推進してはどうか。

以 上